

平成 30 年度 成人歯科口腔健康診査及び歯科意識調査の結果

熊本市第 3 次歯科保健基本計画の成人期における中間評価を実施するため歯科口腔健康診査と歯科保健意識調査を実施した。対象と実施期間、結果は下記のとおり。

【対象】熊本市歯科医師会に委託した成人歯科口腔健康診査の受診を希望した 40—64 歳の市民 427 名
(男 185 人、女 242 人) (40 代:38.9%、50 代:39.3%、60 代: 21.8%)

【実施期間】平成 30 年 9 月 1 日～ 10 月 31 日

1. 歯科口腔健康診査の結果

1. 歯の状況

	処置完了者	治療の必要がある者
40 代	41.6%	58.4%
50 代	44.0%	56.0%
60 代	55.9%	44.1%
全体	45.7%	54.3%

【治療の必要がある者の内訳】

	処置完了者	欠損未処置歯のみ	むし歯のみ	むし歯+欠損未処置歯
40 代	41.6%	5.4%	47.0%	6.0%
50 代	44.0%	4.8%	41.1%	10.1%
60 代	55.9%	7.5%	24.8%	11.8%
全体	45.7%	5.6%	39.8%	8.9%

全体としては 45.7%の者が治療を完了しており、半数以上の者が治療が必要な状況であった。

むし歯だけの治療が必要な者は全体の約 4 割、抜歯後に歯を入れずそのままにしている欠損未処置歯とむし歯と両方ある者は全体の約 1 割であった。

年代別でみると、年代が上がるごとに処置完了者が増加しており、40 代と 50 代では、むし歯を放置している者が多い状況であった。

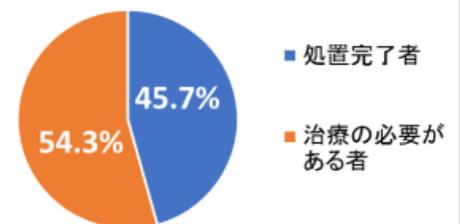
【前回調査との比較】 * 処置完了者以外は重複者あり

	処置完了者	未処置歯がある者	欠損未処置歯がある者
H22	47.6%	35.5%	29.2%
H30	45.7%	48.7%	14.5%

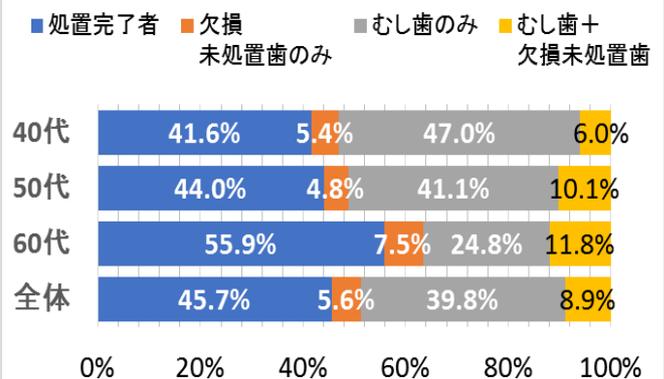
抜歯した後に処置をしていない欠損未処置歯がある者は、平成 22 年度に比べると 14.7%減少していたが、むし歯などの未処置歯がある者は 13.2%増加していた。

処置完了者も 1.9%減少しており、むし歯などを放置して治療していない者が増加していた。

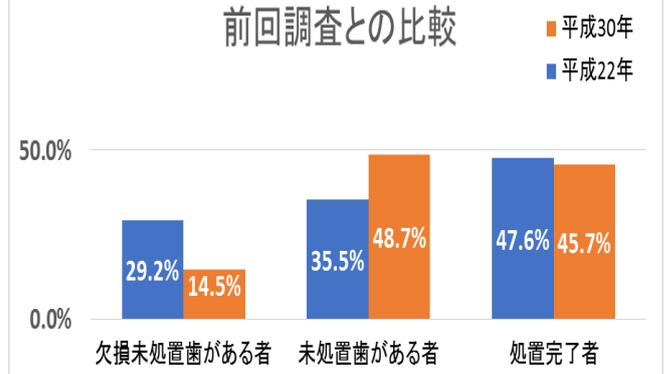
歯の治療状況



歯の状況



前回調査との比較

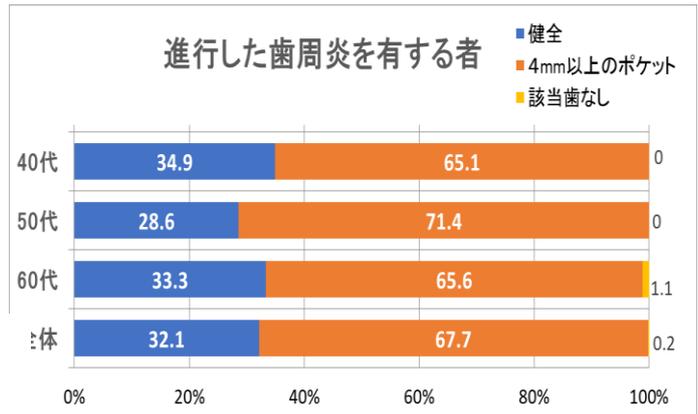


2. 歯肉の状況

【進行した歯周炎を有する者】

	健全	4mm以上	該当歯なし
40代	34.9%	65.1%	0.0%
50代	28.6%	71.4%	0.0%
60代	33.3%	65.6%	1.1%
全体	32.1%	67.7%	0.2%

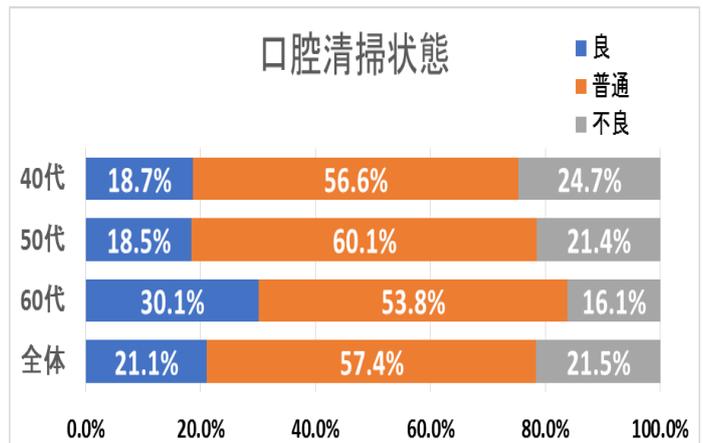
4mm以上の歯周ポケットをもつ進行した歯周病を有する者は67.7%と多い状況であり、年代別では50代が一番多い結果であった。



3. 口腔清掃の状況

	良	普通	不良
40代	18.7%	56.6%	24.7%
50代	18.5%	60.1%	21.4%
60代	30.1%	53.8%	16.1%
全体	21.1%	57.4%	21.5%

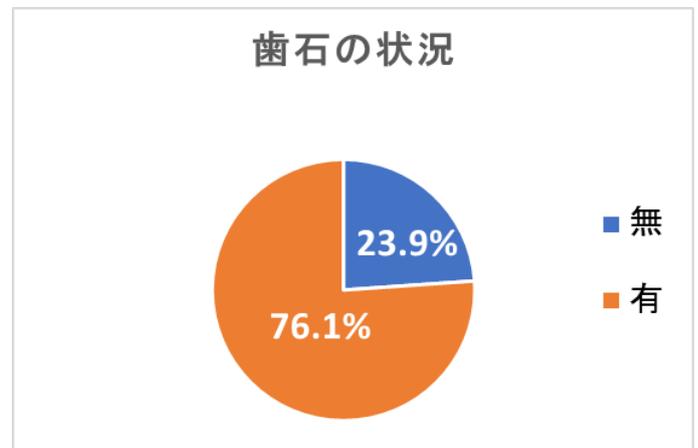
全体としては、良く磨けている者が約2割、磨けていない者も約2割いた。年代別では、40代に磨けていない者が一番多かった。



4. 歯石の状況

	無	有
40代	20.5%	79.5%
50代	20.8%	79.2%
60代	35.5%	64.5%
全体	23.9%	76.1%

歯石がある者は、全体の約8割であった。年代別で見ると、40代50代では約8割に歯石があり、60代は約6割であった。



5. 歯科健診の判定結果

	異常なし	要指導	要治療
40代	11.4%	13.3%	75.3%
50代	13.1%	11.3%	75.6%
60代	23.7%	11.8%	64.5%
全体	14.7%	12.2%	73.1%

全体としては、異常なしの者が約15%、要指導の者が約12%、要治療の者が約73%であった。

異常なしは60代が多く、治療が必要であったのは40代50代がともに約8割と多かった。

